

# 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する星座早見を飾るアスパラガスの葉(前編)

石井竹夫

帝京平成大学薬学部  
e-mail : tishii@thu.ac.jp

## Asparagus Leaves that Decorate a Planisphere Appeared in “Night on the Milky Way Train” Written by Kenji Miyazawa “The First Part”

Takeo ISHII

Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo Heisei University

**Keywords :** 文学と植物のかかわり, 偽果, ほんとうの葉 (鱗片葉), 偽りの葉 (仮葉枝), リンゴ, 三角形, 真果, トマト,

宮沢賢治(1986)の『銀河鉄道の夜(第4次稿)』四章の「ケンタウル祭の夜」に「青いアスパラガスの葉」が登場する。主人公のジョバンニは学校で「黒い星座の図」を見ながら銀河とは何かについての授業を受けるが、帰宅後に母に牛乳が届いていないことを知り牧場に牛乳を取りに行く。その途中で、時計屋の黒い星座早見が「青いアスパラガスの葉」で飾られているのを見る。

「ではみなさんは、さういふふうに川だと云はれたり、乳の流れたあとだと云はれたりしてゐたこのほんやりと白いものがほんたうは何かご承知ですか。」先生は、黒板に吊るした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のやうなところを指しながら、みんなに問をかけました。  
一章「午後の授業」(下線は著者)

ジョバンニは、せはしくいろいろのことを考へながら、さまざまの灯や木の枝で、すっかりきれいに飾られた街を通って行きました。時計屋の店には明るくネオン燈がついて、一秒ごとに石でこさへたふくろふの赤い眼が、くるっくるとうごいたり、いろいろな宝石が海のやうな色をした厚い硝子(ガラス)の盤に載(の)って星のやうにゆっくり循環(めぐ)ったり、また向ふ側から、銅の人馬がゆっくりこっちへまはって来たりするのでした。そのまん中に円い黒い星座早見が青いアスパラガスの葉で飾ってありました。

ジョバンニはわれを忘れて、その星座の図を見入りました。

それはひる学校で見たあの図よりはずうっと小

さかったのですがその日と時間を合わせて盤をまはすと、そのとき出てゐるそらがそのまゝ楕円形「(だえんけい)のなかにめぐって」あらはれるやうになって居(お)りやはりそのまん中には上から下へかけて銀河がぼうとけむったやうな帯になってその下の方ではかすかに爆発して湯気でもあげてゐるやうに見えるのでした。

四章「ケンタウル祭の夜」(下線は著者)

アスパラガス(ユリ科アスパラガス属;*Asparagus officinalis*)は欧州原産の大形の多年草で太い若芽を食用にする。北海道や東北地方など冷涼な地方で栽培されている。岩手県では食用アスパラガスが5月から9月までの間収穫できる。夏には茎が1.5mほどになり上部でよく枝分かれして密生する(鈴木ら, 1995)。面白いことに、葉に見える枝分かれしたものは茎(「偽りの葉」)だという。論文で詳しく調べると、アスパラガス属の植物は葉が鱗片状(三角形の「鱗片葉」)に小さく退化し、その代わりに枝を生じる位置に「仮葉枝(=偽葉)」と呼ばれる葉のような器官を作るとある(茎の形は線状)。この器官は、光合成器官としての役割を担っているため、密生した「仮葉枝」は見た目だけでなく機能も葉と類似している(Nakayamaら, 2012; 中山ら, 2013)。魚の鱗(うろこ)のやうな三角形の「ほんとうの葉(「鱗片葉」)は、食用アスパラガスの若芽では一片が5~15mmで光合成をほとんどしない(第1図)。

さて、賢治は時計屋に置いてある星座早見の「青いアスパラガスの葉」を「ほんとうの葉=三角形の鱗片葉」あるいは葉のやうに見える「偽りの葉=仮葉枝」のどちらをイメージして物語に登場させたのだろうか。『新宮沢賢治語彙辞典』

2013年4月18日受付。

人植関係学誌. 13(1):27-30, 2013. 資料・報告.

(原, 1999) ではこの「アスパラガス」を食用ではなく観葉種 (例えば, *A. plumosus* var. *nanus*, *A. densiflorus* 'Sprengeri', *A. asparagoides* など) と説明している (実際は枝を觀賞している, 第2図)。この辞典を基にしたかどうかは分からないが、『銀河鉄道の夜』のプラネタリウム版アニメ映画 (KAGAYA studio, 2006) と漫画版 (ますむら, 1995) には黒い星座早見を飾るアスパラガスとして枝が細かく分岐して葉のように見える「仮葉枝」が描かれている。では賢治も「仮葉枝」のアスパラガスをイメージしたのだろうか。私は賢治がイメージした「青いアスパラガスの葉」は「偽りの葉 = 仮葉枝」ではなく「ほんとうの葉 = 三角形の鱗片葉」であると確信している。その根拠は、時計屋に置かれている星座早見が物語の舞台である銀河 (天上) の縮図になっていることと、その天上の野原に星の代わりにたくさんの青白く輝く「鱗片葉」と同じ形の「三角形」の巨大な構築物 (「三角標」と呼ばれている) が立っているからである。多分、賢治はアスパラガスの「三角形の鱗片葉」を天上の「星 = 三角標」に見立てて、時計屋の星座早見の星々の上に飾った。根拠の詳細を以下に記述する。



第1図. アスパラガスの食用の若芽と鱗片状の葉。



第2図. 観葉種のアスパラガス。葉に見えるのは仮葉枝。左からブルモーサス・ナナス, スプレングリー, スマイラックス。

## 1. 賢治のアスパラガスの葉に対する知識

『銀河鉄道の夜』は1924年ごろに初稿 (第1次稿) が執筆され、晩年の1931年ごろ (第4次稿) まで推敲が繰り返され1933年の賢治の死後に草稿の形で遺された未完の長編童話である。「青いアスパラガスの葉」は第3次稿と第4次稿で登場する。1924年から1931年の間に賢治の持っている植物図鑑などの資料にはアスパラガスはどのように記載されていたのだろうか。1924年に北海道岩内町に住んでいた下田喜久三 (1924) が書いた『アスパラガス』という書物に「葉は退化して鱗片状となり各分枝の基部を包む」という記載がある。下田はアスパラガスを日本で初めて作るのに成功した人でもある。下田は冷害で大きな被害を受けていた北海道の農家の状況を憂い、1913 (大正2) 年から研究を始め、欧米からアスパラガスの種子を取り寄せ試験栽培を続けた結果、1922年に新品種の開発に成功し、翌年から大規模な栽培を始めた。すなわち、賢治が『銀河鉄道の夜』を執筆したころには、すでにアスパラガスは食用にされアスパラガスの「ほんとうの葉」が「三角形」の小さな鱗片状の葉であることは知られていた。植物が好きで知識欲の旺盛な賢治がこの事実を知らない訳がない。

## 2. ほんとうの葉である必要性はあるのか

『銀河鉄道の夜』は「ほんとう」と「うそ」を見分けるといのが、物語の重要なテーマの一つになっている。八章の「鳥を捕る人」では、登場人物の鳥捕りが天の川の河原で「鶴 (つる → true = ほんとう)」や「鷺 (さぎ → 詐欺)」を捕まえて、それらを売る商売をしている。鳥捕りはジョバンニにマジックを掛け、捕まえた鷺を見せてから雁の足を食べさせる。しかし、ジョバンニは鳥捕りのマジックには引っ掛からなかった。ジョバンニは鳥捕りから貰った雁の足を「ほんとうの雁の足」ではなく「お菓子」だと疑っている (石井, 2012)。また、物語にはリンゴとトマトという二つの果実が登場する。果実は、一般的に花が咲いた後に出来る、食用にするもので種子を食用にするもの以外のものを指す。種によって子房が発達して出来たものと、子房以外の花床などが発達して出来たものがある。子房からなる果実を真果 (true fruit) と呼び、子房以外からなる果実を偽果 (false fruit) と呼ぶ。トマトは真果であり、リンゴは偽果である。物語でジョバンニは真果であるトマトは「むしゃむしゃ」食べるが、天上で燈台看守から貰う偽果のリンゴは決して食べない。リンゴを食べるのはジョバンニが「ほんとうの神さま」について論争する場面で「そんな神さまその神さまだい。」と言ったときの「そんな神さま」を信仰している子供である。このように、「鶴」と「鷺」、「トマト → 真果」と「リンゴ → 偽果」と同じようにアスパラガスの「ほんとうの葉」は物語の重要な小道具になっている。



## 引用文献

原 子朗. 1999. 新宮沢賢治語彙辞典. 東京書籍. 東京.  
石井竹夫. 2012. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する鳥の押し葉. 人植関係学誌. 11(2):19-22.  
ますむらひろし. 1995. 銀河鉄道の夜. 扶桑社. 東京.  
宮沢賢治. 1986. 文庫版宮沢賢治全集 10 卷. 筑摩書房. 東京.  
中山北斗・山口貴大・塚谷裕一. 2013.3.4. (調べた日付). 姿はまるで葉のような「仮葉枝」の進化の過程をはじめて明らかに.

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/press/2012/14.html>  
Nakayama, H., T. Yamaguchi and H. Tsukaya. 2012. Acquisition and diversification of cladodes: Leaf-like organs in the genus *Asparagus*. *Plant Cell* 24:925-940.  
下田喜久三. 1924. アスパラガス. 端洋食品研究所. 北海道.  
鈴木庸夫 (写真)・畔上能力・菱山中三郎・鳥居恒夫・西田尚道・新井二郎・石井英実 (解説). 1995. 山溪ポケット図鑑 春の花. 山と溪谷社. 東京.